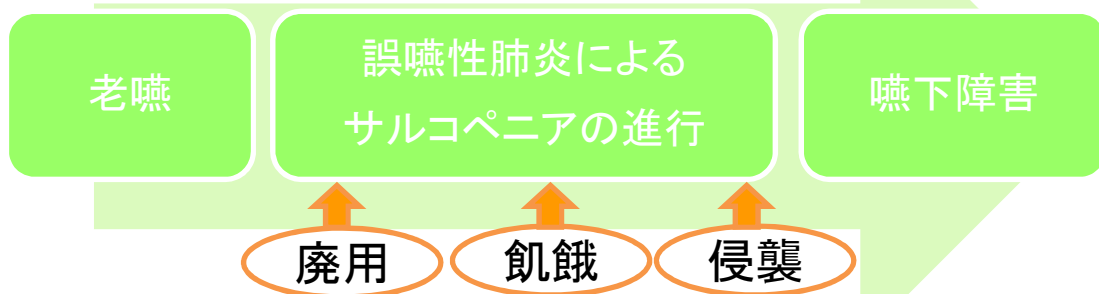


サルコペニアと摂食嚥下障害

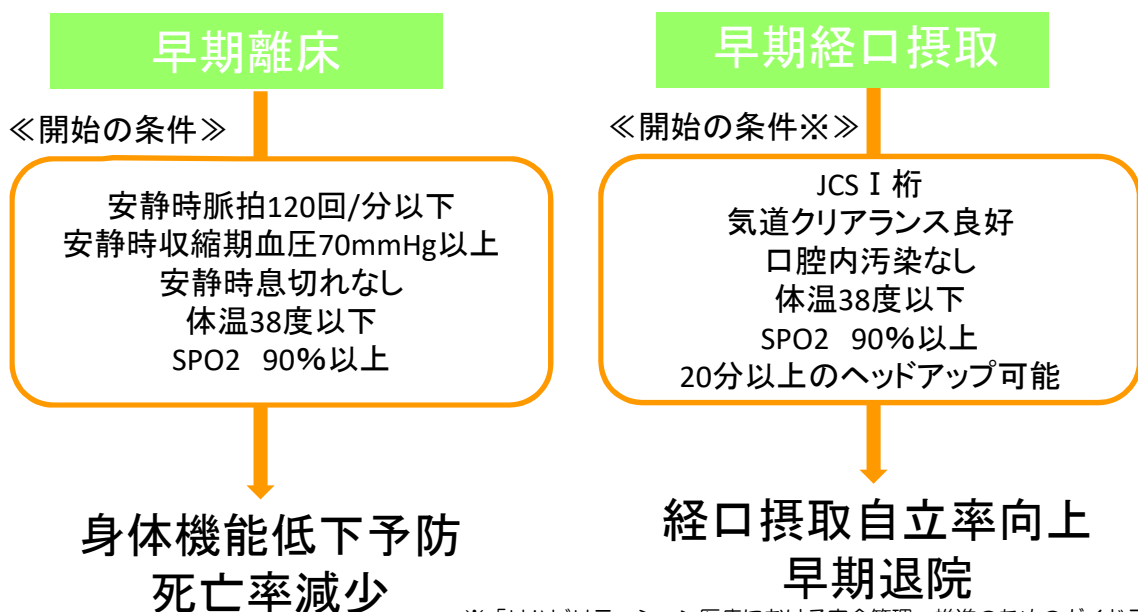
◆サルコペニアの摂食嚥下障害とは◆

全身及び嚥下関連筋の筋量減少、筋力低下による摂食嚥下障害です。とくに、誤嚥性肺炎・大腿骨近位部骨折後・廃用症候群や不適切な栄養管理による低栄養など、入院高齢者で生じやすく、入院前は3食経口摂取をしていた患者が、入院後短期間で重度の摂食嚥下障害となるのが特徴です。



◆早期離床と早期経口摂取の必要性◆

医原性サルコペニアを作らないために、入院直後に全身状態や嚥下機能を評価し、早期離床と早期経口摂取の可能性について判断が必要です。



※「リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン」
日本リハビリテーション医学会

NSTへのお問い合わせは栄養管理部またはリンクナースへ
(栄養管理部PHS：913・970)